

京都大学 工学部 理工化学科

① 進路決定の時期と方法

私が志望校を決めたのは2年の夏頃でした。自由な校風に惹かれ、また、大学ではそんな環境下で勉強以外にも好きなことに熱中して取り組みたいと考え、志望校を決定しました。

② 受験に向けた学習時間、内容

所属していたバドミントン部を引退まで続ける予定だったので、受験勉強はある程度余裕を持った計画で進めており、2年の夏休みから受験を終えるまで、学校や部活が終わってから夜10時くらいまで勉強するという習慣を継続していました。3年の夏休みを終えるまでの目標として、二次試験でメインに使う科目（数学、英語、理科）については、共通テストで自分が決めた目標点数を取るということを設定し、基礎的な参考書や問題集をひたすら反復して基礎を徹底することを意識していました。2学期からは二次試験の過去問に取り組み、自分の学力と必要な学力との差を把握し、その差を埋められるように学習計画を組んでいました。

③ 使用した参考書、問題集等紹介

・数学

青チャート：夏休みが終わるまでに気合いで終わらせました。あくまで問題を一から解けるようになることが大切なので、単なる解法暗記にとどまらず、どうしてそういう解き方になるかを考えてみることは重要だと思います。

世界一わかりやすい京大の理系数学合格講座：この本は2学期から使用し、演習をするというより、問題に対する考え方を学ぶことを意識して使用しました。

・英語

基礎英文解釈の技術 100：夏休みに使用しました。解釈の参考書はとにかく音声を聞いたり、音読したりして復習を忘れないことが大切だと思います。

パスリス：共通テスト1、2ヶ月ほど前から使用しました。共通テストのリスニング対策用のアプリです。使う前は6割も安定していなかったのですが、使ってから8割が安定し、本試験でも実力が出せたので特におすすめです。

・化学

鎌田の有機化学、有機化学演習、化学重要問題集：二次試験用に使用しました。これらをやりこんだおかげで化学が得点源になり、自信が持てました。

④ 学習で上手くいかなかった点とその解決法

冠模試などでは英語と数学の点数が安定しなかったのですが、理科など得意な科目を安定させることや、苦手すぎる科目を作ったり、放置したりしないことが総合点数を安定させる解決法になりました。特に英語と数学は苦手なまま放置すると不合格に直結する要因になりかねないので、これらを苦手にならないように、早めに勉強したことが合格できた一つの大きな要因だったと思います。

大阪大学 法学部 法学科

僕は高校受験の際、本気で努力することができず、たまたま南陽に受かってしまいました。成功を自らの努力で掴むという体験をそこで得られなかった僕は、高校生になっても何も変わらないだらしのない人間でした。入学後すぐに入った塾では指示された勉強すら取り組みませんでした。南陽でも授業中は居眠りし、テスト勉強もろくにしなかったので成績はどんどん下がってしまい、南陽で受ける模試では校内でほぼドベというような状況でした。クラスでは「頭が悪いのに勉強もしない奴」みたいなキャラが定着し、自分自身さえそれを認めてしまっていました。そんな状態が2年生の秋まで続き、周りには明るく振舞っていましたが、実際には自分の将来がとても不安でした。それでも勉強をしない自分に対する嫌悪感と、早くに塾に入ったことによる親からの期待に押しつぶされ、自分に対する自信というものはもはやなくなっていました。勉強をするべきなのにできない自分が嫌いでたまりませんでした。しかし2年生の11月に受けた進研記述模試の、国数英の校内偏差値が37という結果を見て自分の置かれている状況に改めて絶望し、その時に僕の中で何かが変わりました。それから毎日塾に通い、平日は6時間、休日は10時間くらい勉強に取り組みました。様々なYouTuberが上げている参考書ルートを基に、自分に合った参考書を用いて勉強に取り組んでいきました。僕は他の人よりも学力的に遅れをとっていたので、無駄を省いた勉強を行っていき、それによってみるみる成績が伸びていきました。模試の結果から志望校も1、2ランク上がり、6月には大阪大学が第一志望になっていました。その頃には周りからの自分に対する評価も変わってきて、徐々に自分に対する自信も付いていきました。それでもやはり1年という期間は長く、文化祭・体育祭といった行事が多い秋には勉強が全く捗らず、遅れている自分がこんなにサボって本当に受かるのかという不安がまた僕を襲いました。今まで頑張ってきた自分を裏切ってしまうのがしんどく、もう受験なんてやめてしまいたいと何度も思いました。そんな時に支えとなったのは、やはり応援してくれている親や先生、そして共に頑張ってきた友達でした。先生からの応援の言葉や塾から遅くに帰ってきた時に食卓に並んでいる温かい食事、周りの頑張っている友達の姿が自分の背中を押してくれました。それからラストスパートをかけてそれまで以上に勉強し、最後には大阪大学の合格を勝ち取ることが出来ました。この受験勉強を通して辛いことは沢山ありました。でも自分の行きたい大学に自分の努力でたどり着いたことは大きな自信になったし、以前の自分を大きく変えてくれました。また今まで忘れていた、親や友達、先生への感謝を改めて感じ、僕はこの経験で大学合格よりも大きなものを得たなと心から思いました。この1年間で得たものをまた、これからの人生でぶつかる大きな壁を乗り越える糧にしていきたいと思います。

大阪大学 外国語学部 ヒンディー語専攻

- (1) 進路決定は高校2年生の夏休み頃にしました。元々は将来社会科教師になりたくて社会学部や法学部への進学を検討していましたが、空港税関の仕事に就きたいと思うようになり、外国語学部に入りたいと考えるようになりました。沢山ある言語の中でも英語以外で将来性があり実用的であり話者人口の増加が見込めるインドの言語について学びたいと思って大阪大学外国語学部のヒンディー語専攻を目指すことにしました。また、夏休みの間に友達とオープンキャンパスに行って学校の空気感や雰囲気を実際に体感してから進路を大阪大学に固めました。
- (2) 高校時代は3年間吹奏楽部に所属していたため火曜日以外は殆ど毎日部活に行っていました。映像授業のタイプの塾には1年生の頃から通っていて週3、4回程度で授業を受けていました。志望大学を決定してからは毎日部活帰りに週7で塾に行くようになりました。塾が高の原駅の近くだったので高の原駅を通学に利用する部活動の友達と駅までおしゃべりしながら歩いて通うことで、毎日継続して楽しく塾に行くことが出来ました。塾で19時から22時まで勉強し、部活動を仮引退してからは、平日は学校が終わってから16時から22時まで勉強していました。休日は朝9時から夜の21時までずっと塾で勉強していました。
- (3) 大阪大学外国語学部は二次試験の比重が共通テストの2倍以上あったので、主に二次試験対策として英語、国語、世界史の勉強をしていました。英語の配点が国語、世界史の3倍だったので特に英語に力を入れていました。英文和訳では「英文読解の透視図」を、英作文では学校教材のWrite to the Pointを使って主に勉強していました。国語については、私は古文が苦手だったので「新ゴロゴ古文単語」を使って基礎固めをしていました。世界史については、わからない単語があれば辞書的な感じで学校教材の「世界史用語集」をすぐに引くクセをつけていました。いろんな参考書にメモをしてどこに何を書いたのかが分からなくなることを防ぐために大事なメモはこの用語集だけにして、模試の時に復習する教材を絞っていました。論述はZ会の「世界史論述のトレーニング」で文字数の調整をしながら学習していました。
- (4) 私は文系で、数学が苦手でした。しかし、1、2年生で数学を熱心に勉強せず放置したため3年生になってから数学の勉強に追われることになりました。もっと早い時期から苦手な科目は克服しておくべきだと3年生になって気付かされました。また、受験勉強が本格化してくる9、10月は6時間目の授業の後に暑いなか塾まで通うのが大変でした。暑いと勉強する意欲までなくなることが多かったのですが、6時間目の後にスパークゼミのコマを入れたり、学校の自習室を積極的に利用したりすることで、日が出ている時間帯を学校で過ごし、日が落ちれば塾に行くスタイルが体力的にも精神的にも安定した勉強時間作りにつながりました。
- (5) 私は大阪大学に進路を定めてから模試でD、E判定以外取れず、ずっと周りからはその進路は厳しいと言われ続けてきました。だけど、何を言われようとも最後まで諦めずに、自分の意志を曲げずに貫き通し続けたことが最終的に合格に繋がったと思います。勿論、周りの人の意見に耳を傾けることも大切ですが、自分のしたいことを優先することが後悔しない大学選びには必要になってくると思います。模試の点数に一喜一憂せず今自分が出来ることから進路実現に向けて努力を継続させることが大切です！

大阪大学 基礎工学部 システム科学科

(1)進路決定について

中学生から高校 1、2 年にかけて挑戦していた部活動や課外活動(競技プログラミングや情報科学について学べる会への参加)を通して、情報科学について学びたいと思うようになりました。そして高校 3 年生の始めに、この情報科学への思いと「目標は高いこう」という決意をもとに志望校を決めて受験勉強を始めました。最終的に共通テストの後で、難易度などを吟味した末に大阪大学の基礎工学部システム科学科を受けました。

(2)受験に向けた学習について

・1 学期、夏休み

理科を中心に勉強をしていました。また、文化祭の準備期間(夏休み終盤)はつい勉強時間が減ってしまいましたがいい気分転換になりました。

・2 学期

模試の結果をもとに数学の勉強の比重を増やしました。苦手な分野は青チャートで基礎を、それ以外は大学別参考書や過去問を解いていました。10 月頃からは共通テストに向けた対策として古典単語や地理の問題集も少しだけやっていました。

・冬休み、共テ前

共通テストの対策中心、特に化学と地理とリスニングを頑張りました。

・共テ後

志望校の過去問とその類題を解きました。特に数学、英語のライティングに力を入れました。

・通年

英語の勉強は一年を通してやっていました。夏休みにしっかり音読で勉強してから文法に囚われすぎずに英文を読めるようになったので音読はおすすめです。

(3)苦労したこと、悩んだこと

出願校を決めるとき、友達や先生の励ましや自分自身のプライドなどと、「浪人は嫌だ」「大学名よりも学問を学ぶこと(大学生になること)を優先したい」という気持ちが拮抗してかなり迷いました。当時はかなり精神的に追い込まれたが、最終的に自分で考え抜いて悔いのない選択をできました。出願校で悩んだときは、周りの意見を幅広く聞く、(ネットに転がっているような)過激な意見に惑わされない、「自分で」悔いの無いような選択をする、そして選択した後にくよくよ後悔しないという意識が大事だと思います。

大阪大学 医学部 保健学科 看護学専攻

①進路決定の時期と方法

私は元々大阪大学とは違う大学の看護学科の推薦を受けようと思っていました。高校 2 年生になってからもう少し視野を広げようと思い、色んな大学のオープンキャンパスに参加しました。その中で施設や学生さんたちの様子を見て、大阪大学に 1 番胸が躍った事を覚えています。ただ、元々志望していた大学は推薦で合格すれば年内で受験を終えることができるので、進路を変えてしまうことを非常に躊躇っていました。すぐには決断できなかったため、当時はとりあえず実力を伸ばす事に専念していました。そして高校 2 年生の終わり頃、担任の先生との二者面談で医学科を受ける事を薦められました。正直自分が医学科を目指せるとは思っていなかったし、何より浪人のリスクがさらに高い道を目指す事への不安が大きかったです。だから春休み中に大学のパンフレットや要項をいっぱい調べて、どうすべきか、どうしたいかを真剣に考え、結果的に医学科を目指してみる事に決めました。沢山努力して悩んで何とか乗り越えて迎えた共通テストでは、目標点に届くことができませんでした。共通テストを終えた私には浪人・地方大学の医学科・阪大保健学科の 3 つの選択肢があって、この選択が受験期で一番悩んだし辛かったことです。自分の本当の気持ちと向き合いながら、最終的に阪大看護を選びました。「浪人・地方医でもいいから医師になりたい！」という気持ちを持ちきれなかった事、そして自分の将来がより幸せな想像を“してしまう”のが阪大であった事、それらが決め手になりました。受験を終えて今思うのは、阪大の看護に合格できたのは間違いなく医学科を目指して勉強してきたからだということです。だからもし進路に悩んだ時は高い方を目指してみるのはありだと思います。応援しています！

②勉強時間(平均) 学習内容 ※定期テスト前じゃない時の勉強記録参考

高校一年生 平日 0～3 時間 休日 7～10 時間

学校の教材を使って主に定期テスト対策

高校二年生 平日 4～6 時間 休日 10～13 時間

学校の教材やりこむ

高校三年生夏まで 平日 5～7 時間 休日 11～15 時間

塾の教材、学校の教材をやり直す

夏から 平日 6～7 時間 休日 12～15 時間

全教科満遍なく復習

長期休みは毎日 13～15 時間で復習を主にしていました。単語は早いうちに完璧にしておくべきでしたし、定期テストは成績の為にじゃなくて受験時にまた復習すると見越して取り組むべきでした。

大阪大学 医学部 保健学科 検査技術科学専攻

○進路決定について

私が最終的に進路を決めたのは、3年の夏頃でした。それまでは、医療系の分野に進みたいという漠然とした思いはありましたが、具体的にどの大学、何学部に進むのかは決まられていませんでした。家から通える国公立で、浪人はしたくないという思いと、医療系の分野に進みたいという思いから志望校を決定しました。

○受験勉強について

高校入学当初から、定期テストだけは頑張ると自分の中で決めており、定期テストの三週間前から、復習を始め、ワークや問題集は何周もしました。それ以外の日は、特に勉強をしていませんでした。2年生の冬から、基礎的な参考書を買って、基本部分の抜けがないかを確認し、苦手な国語を克服するための勉強をし始めました。三年生からは、本格的に受験勉強を始め、基礎が固まり次第、少し難易度の高い参考書に手をつけ始めました。共通テスト対策は11月頃から始めました。

○悩んだこと

国公立推薦を受けるかを非常に迷いました。推薦というとやはり、生徒会をしていた経験があったり、全国大会に出ていたり、その他、自分がアピールできるところがないと受からないというイメージがあり、私自身そういったものがなかったので、一般選抜に集中した方がいいのではないかと考えていました。しかし、学校の成績が取れていたことと、一回でもチャンスを増やしたいという思いから、最終的に受けることに決めました。私は、結果として推薦で合格することができましたが、それに期待しすぎると落ちた時のダメージが大きすぎるため、落ちて当然ぐらいの気持ちでいることが大切だと思います。

○重要だと思うこと

学校の定期テストが非常に重要だと思います。1、2年生のうちは、受験勉強と言われても具体的に何をすれば良いのかわからない人が多いと思うので、そういう人こそ、学校の定期テストだけは疎かにしないことが大切だと思います。定期テストに向けてやる勉強が、受験勉強の基礎に必ず繋がっているので、たとえ、受験勉強を始めるのが遅くても、取り返しはつくと思います。また、定期テストを頑張って、成績が取れていると、推薦を受けるという選択肢も増えるため、メリットが多いと考えます。

大阪公立大学 法学部

進路決定⇒自分は高2の1月に志望校を決めました。自分は心理学に興味がありましたが、受験科目や就職の面を考慮し、これも興味のあった法学部に決めました。

受験勉強⇒自分は高2までは、英語、数学、社会などの好きな科目は定期テスト前には結構勉強していて、点数やコース順位も上位でした。しかし、国語、理科などの嫌いな科目は定期テスト前ですら、あまり勉強せず、提出課題の答えを丸写ししていました。それゆえ、点数もあまり良くはなかったです。高3になってからはそれぞれの科目を満遍なく勉強しました。自分の第一志望は共通テストの比重が大きいので、社会や理科基礎や情報も6月くらいから着手し始めました。自分の目指す大学の共通テストと2次試験の比率を早めに確認することを推奨します。

学習面⇒自分は英語が割と得意でできる方だと自負していましたが、高2の2学期頃から、偏差値が60前後で伸び悩み、なかなか65を超えられずにいました。そこで、「英単語」の勉強法を変えました。それまでは学校の小テストや定期テストの直前に勉強していましたが、それは「英単語を覚える」本来の目的というよりはむしろ、「小テストで合格点を取って乗り切る」というものだったので、模試の長文や教科書の文章の単語で詰まることが多かったのです。それゆえ、「毎日英単語を200個覚える」ことにしました。LEAPの場合、約2000個あるので10日で1周、1か月で3周できます。最初は赤字・綴り・発音、この3つを念頭に置いて覚えました。慣れてくると、多少は余裕が出てくるので、派生語や黒字の意味も覚えるようにしました。

模試や入試では、平気で赤字以外の意味が出てくるので絶対隅々まで覚えたほうがいいです。単語力が上がると速読は勿論、文章の概要が掴みやすくなったのが自分の感想です。

このやり方を5ヶ月続けると単語で詰まることは激減した上に、学校のテストを思い出す機会として活用できました。

最後に⇒受験は本当にしんどく、厳しい戦いですが、学校にはクラスメイトや友人、先生方がいるので、勉強するのは一人でも、決して一人で戦っているわけではないということを心に留めてほしいです。

同志社大学 商学部 商学科

私は高2の春休みのこれから勉強に本格的に力を入れようという時期に右膝前十字靭帯断裂という怪我を負い、3年生の最初の1ヶ月を病院で過ごさなければならぬ状況になってしまいました。志望校を決定したのは夏頃で、決め手はオープンキャンパスで学部ごとの具体的な講義を受けたことでした。退院後も週2回京都の病院に通ってリハビリをしなければならないなどあまりまとまった勉強時間が取れない状況でしたが、電車移動などの時間で英単語の暗記などを頑張っていました。

夏休み期間中も文化祭の実行委員などの仕事もあり、なかなか満足に勉強できない期間が続きましたが、こんな私でもなんとかあります。

私が勉強するときに意識していたことは「メリハリ」です。私は貧弱で怠惰でどうしようもない人間で毎日ずっと勉強机に座っていられなかったので、勉強するときは狂ったように集中し、しないときは一切勉強のことを忘れて過ごすことを意識していました。

個人的に受験勉強をするにあたって大切だなと思うことを4つ紹介します。具体的な勉強法はもっと賢い人の方法を参考にすることをお勧めします。

1つ目は自分がなぜその学校に行きたいのかを明確にすることです。ほんの些細なことでもいいので、合格のために勉強する理由を持つことをお勧めします。でないと何のために勉強しているのかわからなくなり、やる気が起こりません。

2つ目はたくさん寝て、バランスの良い食事をたくさん食べることです。この二つができていないと集中力が続かず、せっかくの時間が全て台無しになってしまいます。あと肌も汚くなります。

3つ目はプラス思考です。私は約9ヶ月間受験勉強に励みましたが、1度も自分が落ちるというふうには考えたことはありませんでした。具体的な根拠はありませんが、マイナス思考を頭の中に残しておくとうまくいかず、現実がその通りになってしまいます。もし思ってしまったとしても口には出さず、歌でも歌って忘れましょう。

最後は学校にちゃんと行くことです。これは個人によってそれぞれですが、特に受験直前期になると、学校の授業よりも自分で勉強した方がいいと考える人がいます。私は反対です。まず学校に来ることによって生活リズムを安定させることができるからです。学校に行かないといつまでも起きずにベッドでダラダラしてしまうと思います。

また登下校が良いストレス発散になります。歩くだけでも気分がスッキリしたように感じます。もう一つ、学校に行くことのメリットは友達と話せることです。1日中1人で黙々と勉強するのってキツくないですか？友達と話したりふざけあったりすることで、勉強で溜まった疲れが吹っ飛ばすように感じていました。

あとはそれぞれのpassionです。あと利用できるものは全部利用した方がいいと思います。

受験はもちろん人生において最も大切なイベントの1つですが、重く捉えすぎずに日々の生活や学校行事などもしっかり楽しんで人生で1番頑張ってください。

同志社大学 政策学部 政策学科

僕が大学に合格するためにやってきた一年間が参考になるかわかりませんが、これまでの体験をもとに紹介したいと思います。

○進路決定について

最初に大学というものを意識したのは高校 2 年生の 1 月だったと思います。それまでともに勉強をしてこなかった中で、自分がどこまで学力を伸ばすことができるのかわからず志望校を低く設定していました。それが徐々に志望校を上げていくことにつながりました。志望校を変更することは勉強に影響を与えるのであまりおすすめしませんが、上げていくことでモチベーションが上がるのであればとても良いと思います。しかし下げってしまうことは絶対にしないでください。諦める癖がついてしまいそのまま何度も下げってしまうと思います。

○勉強について

僕は質より量をおこなっていました。持論ではありますが、量をこなせてない人が、質が足りてないというのは言い訳だと思っていました。そうではない人も多くいると思いますが、量ができるようになってから質は自ずとついてくると僕は思っています。そして基礎を怠らないということも大事にしていました。英語を例に挙げると、単語を覚えていないと英語は読めないですし、文法が入っていないと英文の構造は掴めないと思います。できないと思ったら基礎に立ち返ることが重要だと思います。基礎の抜けを気づくことができるのは、その教科の演習のみなので演習もたくさんやっていく必要があると思います。

○過去問の使用について

志望校が決まったあとの話ですが、過去問の使用が志望校の可否を分けるポイントの 1 つだと思っています。志望校がある程度決まったタイミングで一度解くことをお勧めします。最低でも夏休みまでに一度解いていると、どのような問題が出るのか理解ができてその後勉強にいい影響を与えるからです。また僕は、同じ志望校の人を集めてみんなで解いてみる、そして取れた点数を共有する、ということをしていました。一見恥ずかしいように見えますが、本番の緊張感のような中で演習ができるのに加えて、自分と周りとの距離が把握できモチベーションに繋がるからです。そして復習を皆でおこなうとより良くなると思います。

最後に、僕は受験本番である 2 月に英語のスランプになってしまいました。共通テストで調子を崩して、好調に戻ることなく受験が終わってしまいました。この時期が一番辛かったです。しかし他の教科で補うことができたり、これまでしてきた自らの努力に自身を持っていたりすれば必ず報われます。どのようなことが起きても崩れない努力してください！応援しています！

トロント大学

アリゾナ州立大学

私の海外大受験の経験談を紹介します。私自身、この1年間上手くいかないことも多くあり、出願した全ての学校から合格をいただいたわけではないので、この経験談が参考になるかは分かりませんが、私と同じような境遇の人の力になれば良いなと思います。

【高校生活】

週6日活動がある運動部で最後の引退まで続けました。学校行事にも力を入れました。海外の大学も日本の大学もどちらも受験しました。英語の勉強は中学に入って始め、中学入学時はアルファベットのpとqがどっちか分からないくらい英語力0の状態でした。

【受験の流れ】

学校の成績や、スポーツ、ボランティア活動、コンテスト、エッセイ、推薦状、面接などが評価の対象になります。その中で、自分が大学の求める人材であるとアピールする必要があります。同時に、海外の学費は非常に高い上に外国人は更にお金がかかるので、奨学金の申請もしないといけませんでした。出願する大学の学位のことや概要を詳しく調べて提出しなければならず、生半可な気持ちではできないと思いました。

【大変だったこと】

- 日本の受験勉強と海外大の出願との両立
忙しい期間は毎日3時間寝られたらいい方で、今でもつらい記憶として覚えているのは、2日間模試がある時に出願を進めないといけなくて二徹して模試を受けたことと、寝ていない状態で真夏に体育のテニスをしたことです。また私は理系だったので海外大のために英語の勉強ばかりやるわけにもいかず数学や理科にも力を入れなければならなかったもので、教科ごとの勉強量のバランスを良くすることに苦労しました。
- 周りに海外大生や参考になる人がおらず、自力で情報を集めたり、自分で海外大生に連絡を入れてフィードバックをもらったりしました。フィードバックは厳しく辛口のものも多く、落ち込むこともありました。
- 周りの友達に海外大受験のことは言っていませんでした。なぜなら、海外大受験を言い訳にして日本の受験勉強を疎かにしたくなく、みんなと一緒に勉強を頑張りたいからでした。しかし、自分が海外大の出願をしている時に友達が受験勉強をしているのを見るのがもどかしく、つらかったです。

【みなさんに伝えたいこと】

人生は選択の連続です。私は、昔はどちらの方が後悔しないかを基準に選択していましたが、実際大切なのは選択ではなく選択後の自分の行動で、その後の自分次第でその選択を後悔なく正しいものにできると思います。また、困難に立ち向かった経験や自分が不利な状況で葛藤した経験は、その時はしんどくても絶対役に立ちます。

若ければ若いほど失敗してもやり直せるリスクが小さいので、色々なことに挑戦してください。みなさんもこれからたくさんの選択を迫られることがあると思いますが、自分の選んだ道で自分が輝けるように頑張ってください。